

言語技術学習が医療系学生のロジカルシンキングスキルとソーシャルスキルに与える効果

—客観的臨床能力試験に向けた基礎ノンテクニカル教育プログラムの検討—

◎野坂 大喜¹⁾、藤岡 美幸¹⁾
国立大学法人 弘前大学大学院保健学研究科¹⁾

【背景】ノンテクニカルスキルは多職種連携や医療安全の観点から医療者共通の必須スキルとされる。2022年度から導入される臨床検査技師教育新カリキュラムでは、臨地実習前の客観的臨床能力試験が必須となり、患者接遇も評価対象に加わった。そのため臨床検査技師学生教育においてはノンテクニカルスキルの習得が求められるものの、教育カリキュラムは専門教育に特化されており、基礎的共通スキルの習得に向けた医療系学生教育手法は確立していない。

【目的】教養教育課程における言語技術教育が医療系学生のロジカルシンキングスキルとソーシャルスキルに与える教育効果を検討し、医療系学生ノンテクニカルスキル共通基礎教育としての有用性を明らかにすることである。

【方法】対象は弘前大学医学部医学科又は保健学科に在籍の初年次学生とした。言語技術教育プログラムを教養教育において選択科目として開講し、受講者57名を対象に教育プログラムの効果検証を行った。比較対照は非受講者80名とした。検証は言語技術教育プログラム受講前後にロジカルシンキングテストとソーシャルスキルテストを行い、ス

コア変化について非受講者と比較した。

【結果】受講前後でのロジカルシンキングスキルテストの正答率を比較した結果、有意($p<.05$)に正答率は上昇した。一方KiSS-18によるソーシャルスキルテストでは、言語技術教育受講者群は非受講者群のスコアに比較して有意($p<.01$)な上昇を示した。

【考察】教養教育過程における言語技術教育は、多職種間での基礎的なコミュニケーションスキルを初期に習得し、専門課程での継続的な対人関係トレーニングを図り、円滑なチーム実習を遂行する上で有用であると考えられる。本教育プログラムは、医療系学生のノンテクニカルスキル向上に寄与し、臨床検査学生教育においては、患者との接遇が求められる臨地実習前教育プログラムとしての発展的活用も期待できる。

【謝辞】本研究はJSPS科研費JP16K13513の助成を受けたものです。

連絡先 0172-39-5918